



# 動く美術館といわれる御車山と、それを守ってきた山町筋。



春を寿ぎ、邪気を祓いながら練り歩く御車山。

毎年5月1日に7基の「山車」(=<sup>やま</sup>御車山)がまちを巡行する高岡御車山祭。商人のまちとして栄えた山町筋の人々が、その財力により豪華なものへと変えながら守り継いできた山車は、金工・漆工・染織などの優れた工芸技術で装飾され、“動く美術館”とも呼ばれる日本屈指の絢爛豪華さです。山車を先導する獅子頭が露払いをし、続いてお囃子を奏でながら厳かに力強く進む山車は、見る者を別世界へと誘います。4月30日の宵祭りも必見で、山宿を務める家では、金屏風を背に人形や幔幕が飾られ、神様を迎える入魂式が行われるほか、山車もライトアップされます。



津幡屋与四兵衛 つばたや よしべえ

山町筋の二番町で若衆頭を務めた算段師(家の解体や地盤整備を手がける人)。近隣のまちが御車山を真似た山車を曳いたことに抗議した「御車山騒動」(1775年)で捕らえられ、獄中で病死。高岡御車山の由緒と誇りを守った功績から高岡関野神社に祀られている。高岡御車山祭では、山車の巡行に先駆け4月3日に「与四兵衛祭」が行われる。

山町筋には高岡の歴史が、刻み込まれているんだ。

山町筋は、前田利長公が高岡城の西側に商人のまちとして整備し、近隣の城下町などから町民を招いてできたまちなんだ。高岡城が廃城になったあとも、三代の利常公が町民の転出を禁じて商業政策を打ち出した。高岡は加賀藩の米や塩、綿の集積地となり、経済の中心地としてどんどん栄えていったんだ。



日本と西洋の建築が融合した、独特の趣と情緒。

御車山祭に風情を添える、袴と一文字笠で正装した男性たちは、山町筋の旦那衆。重要伝統的建造物群保存地区でもある山町筋は、漆喰塗りの土蔵造りの家が建ち並び、最も山車が美しく映える場所でもあります。この土蔵造りは明治33年(1900)の高岡の大火後、防火対策として建てられたもの。地区の代表的な建築物である菅野家住宅の内部は、全国から貴重な材を集めた数寄屋風の建築で、2階の観音開きの扉や隣家との間にあるレンガの壁は防火対策の表れです。通りにはレンガ造りの銀行のように洋風建築もあり、豪商たちの財力と心意気を、今も感じることができます。



季節を問わず、御車山祭のことを深掘りできる場所  
**高岡御車山会館**

高岡御車山祭を、様々な角度で紐解く施設。その奥深い歴史や、漆工・金工・染織の優れた技の紹介のほか、通年での御車山展示も。また、祭りの様子を超高精細画質の4K大型シアターで楽しめます。

高岡市守山町 47-1 Tel:0766-30-2497  
火曜日休館 観覧料(高校生以上)300円



# 高岡の優れた伝統技術が、 山・鉾文化を支え、守っている。

## 高岡の伝統産業の歴史と今

御車山を彩る伝統工芸が示すように、高岡は高岡銅器や高岡漆器に代表されるものづくりのまちです。今もその伝統の技と職人の心意気は生きており、世界的に高い評価を受けるプロダクトも数多く生まれています。

高岡のものづくりの礎は、前田利長が町外から、河内鑄物師の流れを汲む7人の鑄物師を招いたことに始まります。加賀藩は鑄物師を廃藩まで手厚く保護し、鑄物師たちは税金の免除など多くの特権が与えられたため、高岡は日本有数の鑄物の産地になっていきました。

鑄物師たちが土地を拝領し活躍した場所は金屋町と名づけられ、今も千本格子の建物が並び、重要伝統的建造物保存地区として江戸時代からの趣を今に伝えています。



現役の  
職人さんが手がける  
新しい御車山…!!



## 「平成の御車山」制作中!

### 人間国宝も輩出する高岡。 次代に伝統技術を残す取組みが集積。

高岡御車山の保存修理や平成の御車山の制作を主に行っているのは、人間国宝の大澤光民氏をはじめ、高岡地域を中心とする伝統産業技術者約100名で組織している「高岡地域文化財等修理協会」です。県内外の山・鉾・屋台等の新調や保存修理を行い、伝統産業技術の向上や継承、後継者育成などを目指しています。

また、高岡では、「高岡市ものづくり・デザイン人材育成特区」として市内の全小中学校で独自の教科「ものづくり・デザイン科」を実施しているほか、デザインや工芸に特化した産業支援機関、大学・高等学校などものづくりと伝統技術を支える公共機関が数多くあります。



左: 平成の御車山制作状況

平成の御車山の車輪。完成した部材は高岡御車山会館で公開しています。

右: 修繕も地域の職人の手で

御車山の車輪に、約150年ぶりの修復を施している様子。御車山のほか県内外の山車の新調・修理でも高岡の職人が活躍しています。

高岡で培われてきた伝統と技術を次世代に伝え、未来への発展を目指すシンボルとして、2013年からの5年計画で「平成の御車山」を制作しています。本座に前田利長と永姫、相座に満姫を配し、歴史都市・高岡の「400年の歴史」を表現しています。

# TOPICS

## News

高岡のものづくり企業が  
国際的なデザインアワードを続々受賞!



左:木と金属を組み合わせ、柔らかさと動きを出したkisen cupシリーズ。右:錫のみで作られた花器、LASSO。リング状の部分を自由に曲げ伸ばせる。

今秋、3つの企業の商品が国際的な賞を獲得しました。1つは、四津川製作所のkisen cupシリーズ。2016年アジアデザイン賞(香港デザインセンター主催)のプロダクト&工業デザイン部門において銅賞を受賞しました。また、台湾政府主催の2016金点設計奨(ゴールデン・ピン・デザインアワード)プロダクトデザイン部門で、(株)能作の「LASSO」(写真右)および(株)山口久乗の「こころりん」が特別賞ベスト オブ ゴールデン・ピンの最終候補に選ばれました。

問合せ 四津川製作所 Tel:0766-30-8108  
能作 Tel:0766-63-5080  
山口久乗 Tel:0766-22-0993

メール: info@kisen.jp.net  
メール: info@nousaku.co.jp  
メール: info@kyujo.co.jp

## Release

職人100名による100の「そろり」。  
12月富山、1~2月東京にて展示予定!



今年創業100周年を迎えた能作の記念事業「100のそろり」。伝統的な茶席の花入れ「そろり」を、高岡の職人100名がそれぞれの技術や創意工夫で制作しました。今冬、富山・東京で展示し、受注販売も行います。全てのそろりの特徴を紹介した書籍も完成し、同会場にて販売予定です。

- 12月21日-12月27日 富山大和アートサロン
  - 2017年1月18日-1月24日 松屋銀座7階 遊びのギャラリー
  - 2017年2月15日-2月28日 日本橋三越本館5階 スペース#5
- ※詳細は能作HP(www.nousaku.co.jp)参照

問合せ 能作 Tel:0766-63-5080  
メール: info@nousaku.co.jp

## Release

英語版・簡体字版パンフレット完成!

訪日外国人への訴求を狙い、このたび新たに英語版・簡体字版パンフレットが完成しました。表面にて日本遺産に認定された高岡の物語を紹介し、裏面にはイラストマップや実用的なトラベル情報を掲載しています。ご希望の方には無料でお送りします。CREP4 (info@crep4.com) までお申込みください。



◎ 貴媒体でのご紹介・ご取材をご検討いただきますよう、お願いいたします。

富山県 高岡市日本遺産推進協議会

お問合せ (プロモーション担当): 一般社団法人 CREP4 (クレップフォー)

〒933-0928 富山県高岡市守山町 57-1 tel.0766-54-6210 info@crep4.com

担当: 荻布 (おぎの) 090-2838-0098 林口 090-9760-4266